

子どもの目線に近い学生の視点からの支援 ～外国にルーツをもつ子どもたちの支援グループ日和の事例から～

平野莉江子（外国につながる子どもらへの支援活動「日和」）

西村万里（外国につながる子どもらへの支援活動「日和」）

実践の場の特徴

- ・大学生・大学院生を中心に外国につながる子どもとその家族へ幅広い学習支援活動（教科学習や受験相談など）や交流イベントを毎週土曜日に地域の公民館で開催している。
- ・2006年に（公財）大津市国際親善協会の一事業として活動開始、2012年4月に独立して任意団体となり現在も瀬田公民館や（公財）滋賀県国際協会等の理解と協力を得て活動を継続している。

実践の目標

- ・子どもたちが地域で学んで育ち、安心して勉強できる居場所を作る。
- ・教室活動という社会的共同体への参加を通じて、子どもたちの多文化背景を持つ人材としての肯定的な側面を引き出し、地域を構成・運営する貴重な人材としての、育成につなげる。
- ・支援者である若者が地域の多文化共生の現状を学び、将来の地域社会の設計に役立てることができるよう社会参加の場を設ける。

具体的な実践の内容とその過程

- ・子どもへの学習支援活動や保護者への教育相談、交流イベント（バーベキュー会、クリスマス会、料理教室など）を行う。
- ・教育委員会や地域の小学校を周り活動の広報活動を行っている。2011年からは活動報告および情報周知のためブログを開設。今年度はFacebookの立ち上げを行った。
- ・支援者が地域の多文化共生の現状をより多く知るために教室活動以外にもブラジル学校などへの視察も行っている。

結果と考察

長年の学習支援活動により、一部の子どもは入試という関門を突破して高校・短期大学に進学できた。また、交流イベントにより、支援者と子どもの保護者の顔合わせが実現でき、信頼関係の醸成に役立った。これらの活動は、一部支援者のキャリア形成にも役立った。今後はより多くの子どもたちの出会いの機会を増やし、地域日本語教室の発展につなげるためにも他の教室や教育機関とのネットワークづくりを課題としたい。